

造酒屋敷跡と土塁の調査を行いました!!

仙台市教育委員会文化財課 平成29年11月4日(土)

調査概要

- 遺跡名 国史跡仙台城跡(造酒屋敷跡・三の丸土塁)
- 所在地 仙台市青葉区川内地内
- 調査原因 国庫補助による遺構確認調査
- 調査面積 造酒屋敷跡 約110㎡ 土塁 約25㎡
- 調査主体 仙台市教育委員会(担当:文化財課)
- 調査期間 平成29年7月~11月中旬(予定)



仙台城跡の性格究明のための発掘調査を、造酒屋敷跡と三の丸土塁の2箇所で行っています。造酒屋敷跡の調査は平成20年度から行っており、今回で5回目の調査です。今回の調査は、昨年度に引き続き、屋敷地南側の使われ方を明らかにするために実施しています。土塁については3回目の調査になりますが、堀(長沼)に面した部分では今回が初めての調査となります。



写真1 仙台城跡空撮写真(東から撮影)

造酒屋敷跡発掘調査の成果

造酒屋敷跡の南端で、溝跡などの遺構と土地造成(整地)の跡を確認しました。

今回調査した範囲は、造酒屋敷跡の南端に位置すると考えられる場所です。今回の調査では南北方向に延びる溝跡や、東西2.9m、南北5.6mの大きな掘り込みを確認しました。これらの性格については、今後検討していく予定です。また、建物跡の礎石根固め跡の可能性が考えられる遺構を2基確認しました。さらに、数回にわたり土をならして整地しているとみられることも分かりました。

これまでの調査範囲

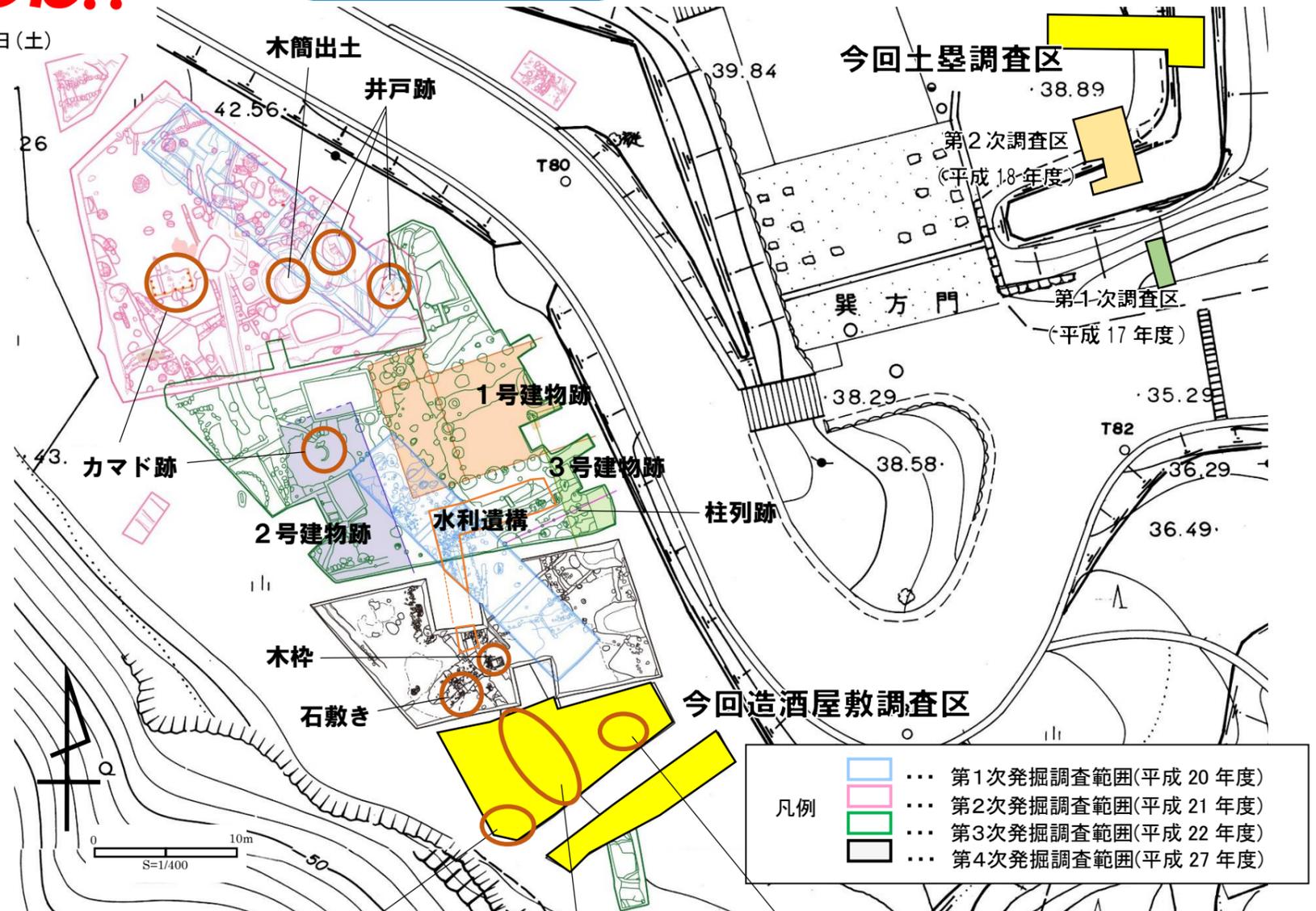


図1 造酒屋敷跡、三の丸土塁調査区配置図



写真2 大きな掘り込み(東から)

遺構の中央が最も深くなるように、岩盤まで掘り下げられています。水を溜めていた可能性があり、岩盤の裂け目からは今でも水が湧き出ています。



写真3 南北に延びる溝跡(南から)

性格は不明ですが、溝跡からたくさんの瓦や石が出てきています。



写真4 柱跡の可能性のある遺構

(南西から)
見つかった2基のうち1基からは、根固め(礎石を支える小礫の集まり)と見られるものが見つかりました。

造酒屋敷の概要

造酒屋敷は、仙台城内で酒造りを行った場所です。伊達政宗は、徳川家重臣柳生宗矩の紹介で、慶長 13(1608)年に大和国(現在の奈良県)から又右衛門という職人を招き、仙台城内の一角に屋敷地を与え、酒造りに当たらせました。又右衛門は出身地にちなんで「榎森」の苗字を名乗ることを許され、以後、榎森家は明治 9(1876)年に廃業するまで、「御酒屋」として藩内で消費する酒を造り続けました。

これまでの調査で、「榎森与左衛門」と書かれた木簡が出土し、調査区のある平場が榎森家の屋敷地の一角であることが裏付けられました。また、酒造りの原料である米を蒸すためと考えられるカマド跡も見つかっていることから、実際に酒造りが行われていたと考えられます。

三の丸土塁発掘調査の成果

約2mの高さの土塁の積土を確認しました。

現在「仙台市博物館」の敷地となっている三の丸跡は、江戸時代の城下絵図では「蔵屋敷」「御米蔵」「東丸」などと記されており、北側と東側を水堀と土塁に囲まれています。これまでの発掘調査で一角に庭園や茶室があったことが分かっています。

今回調査した巽門近くの土塁南端部では、土塁をつくるために少なくとも約2mの高さの積み土をしていたことが分かりました。土塁の積み土は岩や石を多く含み、上部からは瓦片が多く出土しました。今回の調査では土塁の上面に塀や柵などの痕跡は確認されませんでした。また、戦前にあった陸軍第二師団の建物により、土塁の一部が削られていることが確認されました。

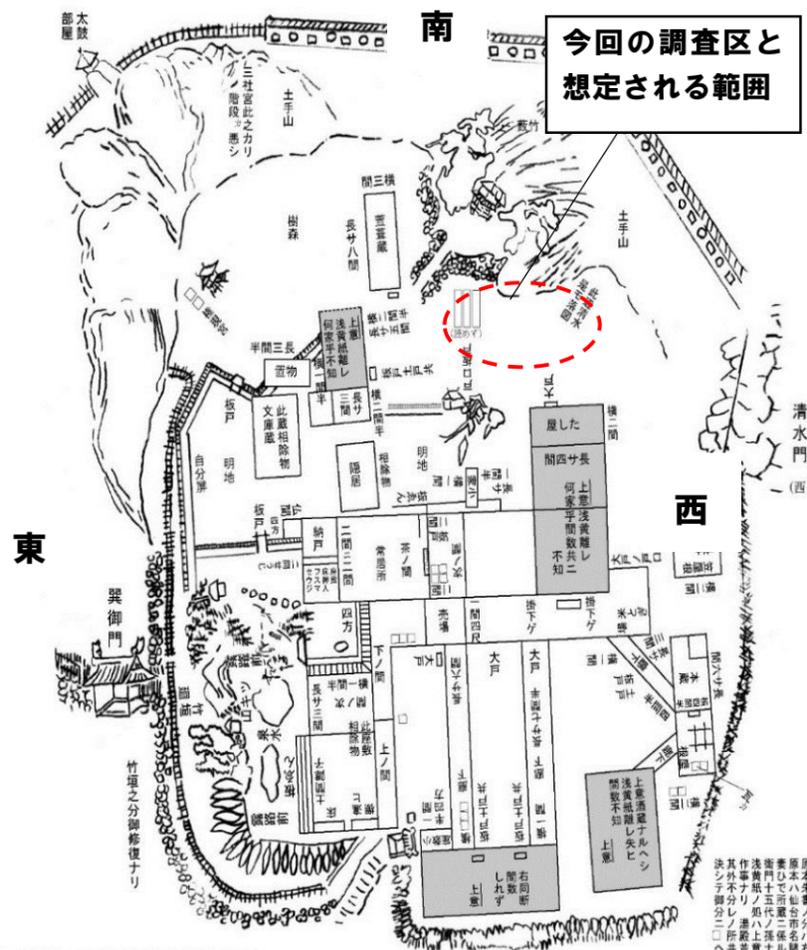


図2 『仙台城内榎森御酒屋之図』の模式図

『伊達家史叢談』(大正 10 [1921] 年)に載せられている図面を描き直したもの

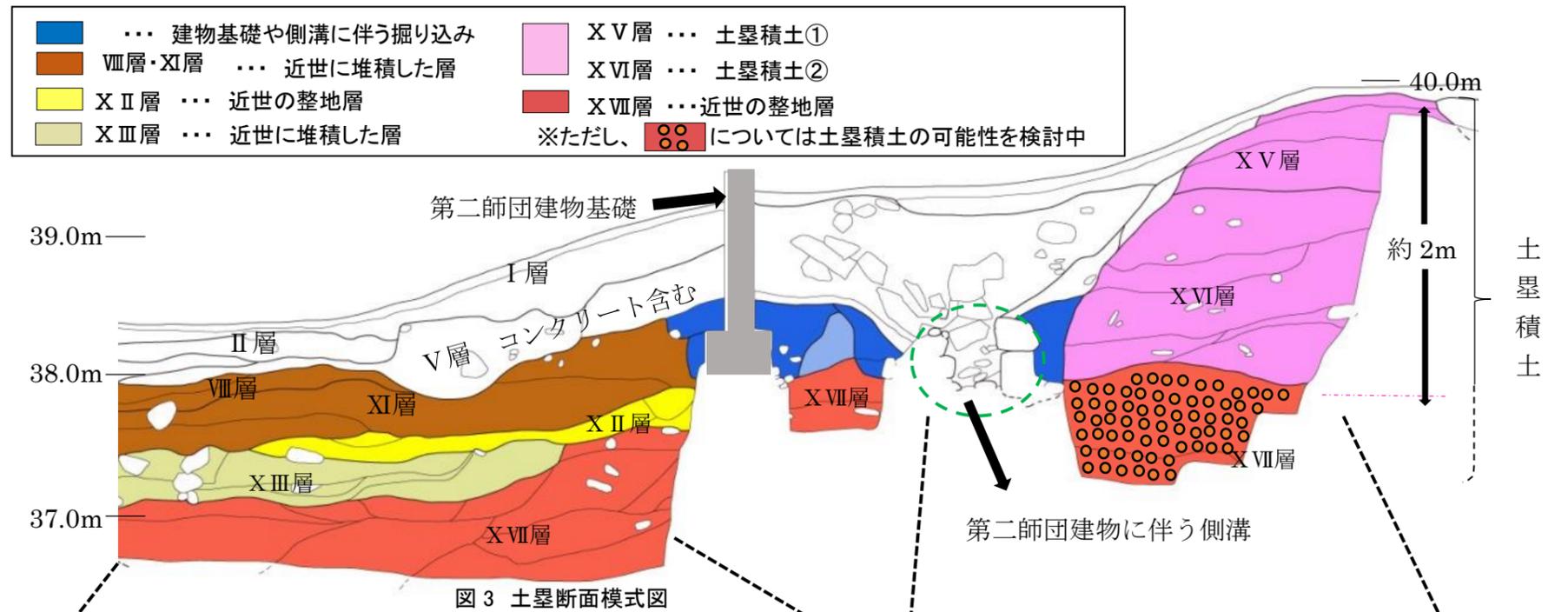


図3 土塁断面模式図

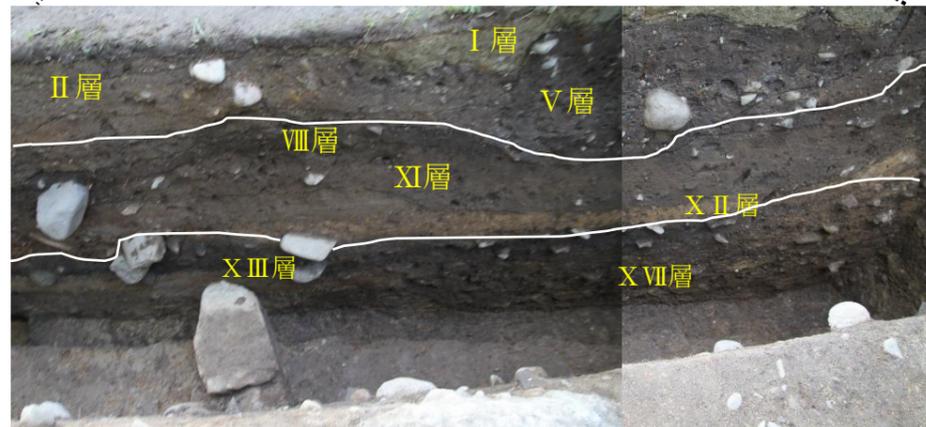


写真5 土塁西側断面



写真6 土塁東側断面